

トンパ文字における「点」と「会意・形声・注音文字」について

2009251001 浅原まど香

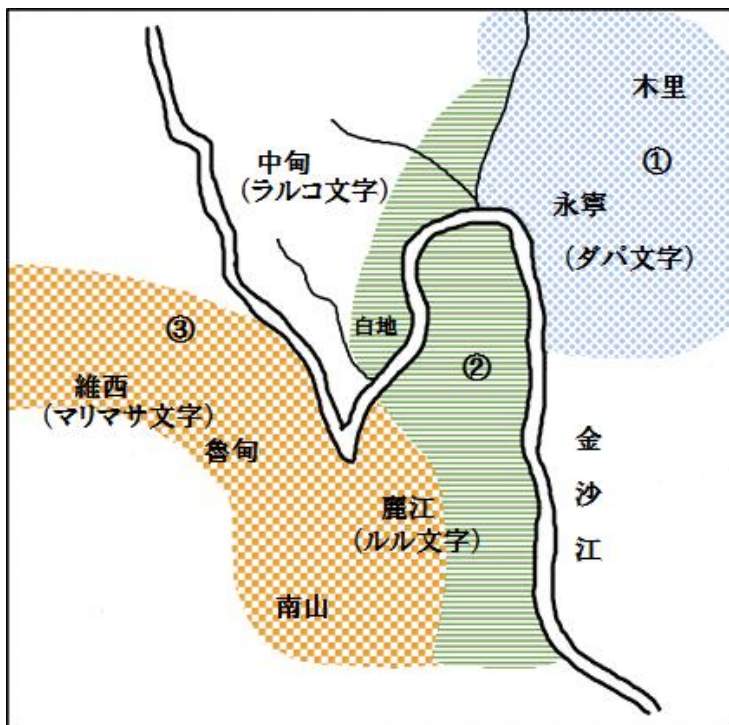
1. はじめに

トンパ文字とは中国少数民族の一つであるナシ族が持つ、文字というより絵に近い形を持った象形文字で、現在でもトンパ(東巴)と呼ばれるナシ族の祭司によって使用され、受け継がれている。近年では芸術的観点からの関心も高まっており、トンパ以外の人でもトンパ文字を用いて自らのアートを作り上げるということを行っている。私がトンパ文字に興味を持ち、詳しく調べてみたいと思ったのもその特徴的な形に強く心を惹き付けられたからに他ならない。今回は私がトンパ文字を調べていく中で発見したことや感じたことをいくつか紹介したいと思う。文字を調べるにあたっては方国瑜・和志武(1981)および李霖灿・和才・張琨(2001)を資料とした。

2. トンパ文字概要

ナシ族は数種類の文字を持っており、トンパ文字はその内の一つである。他には音節文字のゴバ文字、トンパ文字の変体文字のマリマサ文字・ラルコ文字・ルル文字、ナシ語東部方言地域の伝統宗教であるダパ教の経典に見られるダパ文字などがある。トンパ文字を含めこれらの文字は使用地域が限定されている。

図1 ナシ族の文字の分布図(西田龍雄 2011 p.22 より一部変更して作成)



- ① トンパ文字・ゴバ文字を使わない地域
- ② トンパ文字のみを使う地域
- ③ トンパ文字・ゴバ文字を併用する地域


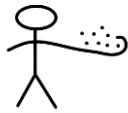


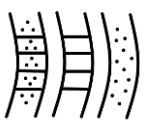
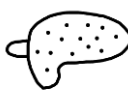
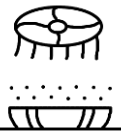
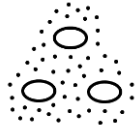

トンパ文字の構成法はほとんど漢字の六書と同じで、象形文字、指事文字、会意文字、形声文字、仮借文字、そして注音文字¹と呼ばれるものがある。注音文字とは単独でも意味がわかる象形文字をさらにわかりやすくするためにその字と同じもしくは似ている発音の文字を注音符として付け加えた文字のことで、意符+音符の形は形声文字と同じだが、形声文字は音符が主であるのに対し注音文字は意符が主となっている。

トンパ文字はトンパと呼ばれる儀礼の専門家が儀礼を行う際に使う経典に使用される文字であり、一般の人が使用することは基本的にない。よってトンパ文字を用いて経典を書き、またそれを読むことができるのもトンパだけとされている。

3. 「点」について

トンパ文字は基本的な文字に点や線といった記号を加えることで、物事の状況や変化を表すことができる。私は今回「点」に着目して分析を行った。トンパ文字において表される点には主に複数点、連続点、単点の三種類がある。

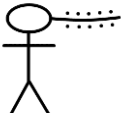
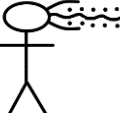
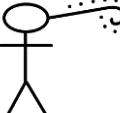

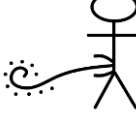

複数点を使用した文字

	① 天いっぱい の星		② 私たち		③ 豊富、盛んで ある
	④ 人口が増え る		⑤ 帯		⑥ 豚肉
	⑦ 晒す、干す		⑧ 砂		⑨ 種をまく

¹ 西田龍雄 (2001) 『生きている象形文字』 五月書房 p.88-90




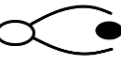
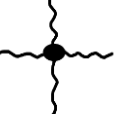

複数点は主に多いことや満ちていること、繁殖すること、または模様やまだら色を表す場合に使用される。①、②は多いこと、③、④は繁殖すること、⑤、⑥は模様やまだら色を表している。他には粒状で細かいものの集まりなどが複数点で表されている。(⑦は水蒸気、⑧は砂、⑨は種)

連続点を使用した文字

	⑩ 叫ぶ		⑪ 歌う		⑫ ほえる、怒鳴る
	⑬ 嘔吐する		⑭ 下痢をする		⑮ 飲む

連続点は物事が連続していることを表す場合に使用される。⑩、⑪、⑫はそれぞれ声を連続して出すことで「叫ぶ」「歌う」「笑う」といった意味になっている。⑬、⑭、⑮は水分状のものが流れている様子を表しているが、流れるというのは連続的な動作なのでこの連続点が使用されていると考えられる。

単点を使用した文字





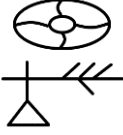
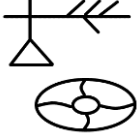

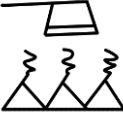

	⑯ カラス		⑰ 黒色の服		⑱ 暴雨
	⑲ 苦い		⑳ 暗い		㉑ 凶日




まだら色を表す場合は複数点を使用されているが、黒色を表す場合は大きな黒点が文字の中に書かれていることが多い。この黒点は黒色の他にも大きい(程度が激しい)、苦い、暗い、不吉というようなあまり良くないことを表す場合に使われている。





点とはいわゆる記号・符号の一つであるが、トンパ文字においては「点」は単なる記号ではなく、意味を持った一種の文字として扱われていると言える。

4. 会意・形声・注音文字について

トンパ文字にはいくつかの文字を組み合わせて作られた会意・形声・注音文字が数多く存在する。しかし見た目には同じ様な形のものも多く、我々トンパ文字学習者にとっては何文字なのかをすぐ判断できないことも多い。いくつか例を挙げて文字の意味や構成法を見てみよう。

	㉒ 森林 [bi ³³]		㉓ 森林 [bi ³³]		㉔ 買う [hæ ³¹]
	㉕ 買う [hæ ³¹]		㉖ 朝 [so ³¹]		㉗ 明日 [so ³¹ ŋi ³³]
	㉘ 銑鉄 [ʂo ³³]		㉙ 刃を修復する [ʂo ⁵⁵]		㉚ 主人[pv ⁵⁵] 富む[tʂa ³¹]

㉒と㉓、㉔と㉕は「同じ意味でも使われている文字が異なる場合」である。㉒と㉓は共に「森林」を表す文字。㉒は数本の木に多数を示す点を付け加えた会意文字で、㉓は森林に「こする」 [bi³¹]という音符を組み合わせた注音文字になっている。㉔と㉕は共に「買う」を表す文字。㉔は人が「金」 [hæ³¹]を持っている様子を表しているが、これは金の発音を借りた形声文字である。㉕は人が「銀」 [ŋv³¹]を持っている様子を表しているが、こちらは会意文字である。

㉖と㉗、㉘と㉙は「使われている文字が同じでも位置によって意味が異なる場合」である。㉖は「朝」を表す文字で、「太陽」 [ŋi³³me³³]に「はかり」 [so³³]という音符を組み合わせた形声文字。この太陽とはかりの位置を上下逆にして㉗の形にすると「明日」という意味になる。㉘は「銑鉄」を表す文字で、「火」 [mi³³]で「鉄」 [ʂo³¹]を精錬している様子を表した会意文字。文字の中の「振動」を意味する波線（おそらくこの場合は「熱気」という意味で使われている）を火と鉄の字の間に置いて㉙の形にすることで、「刃を修復する」という意味になる。

㉚は「一つの文字に複数の意味がある場合」である。㉚は「主人」、「富む」という意味の会意文字。「主人」の場合は[pv⁵⁵]と読み、人がごはんを運んで客をもてなす様子を表している。「富む」の場合は[tʂa³¹]と読み、人が食べられるだけのごはんがある、すなわち裕福である様子を表している。

似たような形を持っていても詳しく見てみると構成法が会意文字、形声文字、注音文字と様々だったり、文字の意味が違っていたり、文字の読み方が違っていたりする。今回は「使われている文字が同じでも位置によって意味が異なる場合」を挙げたが、「意味と使われている文字が同じでも位置が異なる場合」も存在し、むしろ数としてはこちらの文字の方が多いのではないかと考えられる。というのもトンパ文字は書き手や地域によって形に差が出てくる非常に自由な文字だからだ。

5. まとめ

私はトンパ文字における点の使われ方や会意・形声・注音文字といういくつかの文字が組み合わさったものを調べたが、重要だと思ったのはやはり一つ一つの文字について理解するということだ。文字によっては音符として使用されていることもあるが、基本的にはトンパ文字は皆意味を表すものなので、まず文字単体で見た時にその文字が表す意味は何かということを理解しておき、次に他の文字と組み合わさった時に意味や使われ方（意符としてなのか音符としてなのか）がどうなっているかを調べる必要がある。点でも複数点の場合と連続点の場合と単点の場合では意味が異なってくるので、それぞれが表す元の意味をきちんと理解しておくことが重要である。

このようにトンパ文字について分析することも非常に面白い作業ではあるが、やはりトンパ文字の一番の魅力というのはその特徴的な形だと思う。おそらくトンパ文字を利用した芸術作品というのはこの先さらに増えていくだろう。私のようにトンパ文字の魅力に惹き付けられた人がもっと詳しく調べてみようと思うこともあるかもしれない。私たちはトンパではないけれど、トンパ文字を書いたり研究したりすることで、この文字を後世に残していく手助けができるのではないかと思った。

<参考文献>

- 河野六郎・千野栄一・西田龍雄（2001）『言語学大辞典 別巻 世界文字辞典』三省堂
西田龍雄（2001）『生きている象形文字』五月書房
方国瑜・和志武（1981）『納西象形文字譜』雲南人民出版社
李霖灿・和才・張琨（2001）『納西族象形標音文字字典』雲南民族出版社